第４節　重点事業についての総括

重点事業　小地域での見守りの仕組みづくり

〔目標〕

小地域（分会）の単位で、要配慮者に対する日常的な見守り活動を進めることによって、地域生活において孤立することなく、日常生活を安心して送ることができ、また、緊急時や災害時にも地域の住民同士が助け合い、適切に対応できることを目的としています。

対象者の把握、定期的な状況確認など要配慮者と住民と地域、民生委員・児童委員等とが関係づくりに努め、必要に応じて関係者や機関へ連絡する体制づくりを進め、その他関係機関やサービス提供者など日常生活支援者ともつながり、緊急時や災害時での円滑な助け合いに寄与するため、イメージ図も盛り込んだリーフレットなど作成し、計画的に進めることを目標としました。

〔これまでの取り組みを振り返って〕

日常的な見守り活動は、単に要配慮者との日常的な関係づくりを進め、地域からの孤立を防ぐだけでなく、緊急時や災害の時に地域で円滑に支援するための様々な情報を得て、適切な方法を考え、対応することができるようになります。これまで本会が進めてきた小地域福祉活動の基盤や体制づくり、つまり地域が主体となって担い手や支援の方法を検討、実践し、住民や地域、機関がつながって、安心して暮らせる地域（まち）をつくるという要素がすべて備わった取り組みです。近年多発する大規模な被害を起こす天災が起こったとき、地域が中心となって対処できるよう「見守り活動」への関心や行政と連携した取り組みが進められつつありました。市内で、見守り活動など小地域福祉活動が区・自治会で進められるようリーフレットを作成しました。

第１次活動計画の策定の翌年、支部単位や見守り活動に安心のある地区等で懇談会を開催し、第１次活動計画の周知とあわせて行いました。見守り活動への関心は高いものの、区・自治会活動の中で進めるには、組織や年間の活動、地域社会での役割など、新たな組織や継続的な体制づくりを進める余裕や負担の大きさと、要配慮者の的確な情報の収集や個人情報の扱いなど、社協と地域で進めるには様々なハードルがあり、現状において厳しいものがありました。

南山西老人会への説明会
サロン活動の後、見守り活動の趣旨や進め方などについて、会員を対象に説明しました。

しかしながら一部の地域では要配慮者が多く住み、地域社会からの孤立や孤独死の問題と直面しており、本会の思いが共有できたことで、要配慮者の把握や名簿づくり、定期的な友愛活動の取り組みを進めることができました。「これから」を見据えて、老人会や民生委員・児童委員と連携して進めた地域もありました。

今後は、行政で進められる地域防災計画の中で、災害が起こったときに地域が主体的に避難計画や方法について検討、訓練することとなります。その中で行政と地域において要配慮者の情報が共有され、いざという時のために、有効に活用されることが期待されます。そのためにも日常的な関係を、見守り活動を通じて育み、支援の仕方や術を把握し、多くの住民が参加し訓練することが、円滑な援助、避難誘導へとつながっていきます。地域防災計画の進捗状況を注視しながら、必要性を周知し、関心のあった地域への支援に努めていきたいと考えています。

この５年間で当初計画通りすすめることは困難でしたが、府営団地や南山西、同志社住宅の分会で見守り活動に必要な名簿づくりや訪問活動等の取り組みが進みました。府営団地における活動を中心に振り返ります。

〔この５年間の活動から…〕

府営団地分会における取り組み

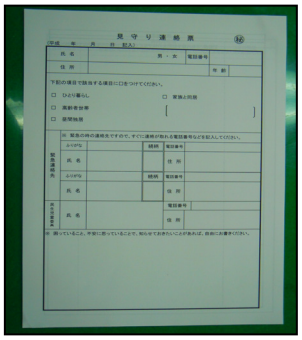
○活動のきっかけとこれまでの取り組み

府営団地分会は、公営住宅という事情から高齢者や障がいのある方、ひとり親世帯等地域や日常生活において要配慮者が多い地域で、これまで高齢者の孤立や孤独死等の問題があることを、第１次活動計画を策定の際に行った地域懇談会で伺いました。

計画策定後に見守り活動の推進のモデル地域として、活動の方法や個人情報に配慮し登録制とするための様式等について話し合いを重ねました。平成２０年度から住民へ回覧で呼びかけ、次年度に自治会長を中心に福祉部役員と連携して「見守り登録票」を配布し、見守りを希望する者のみ提出・回収する形で主にひとり暮らしの高齢者や高齢者夫婦世帯の名簿づくりに取り組みました。

友愛活動と登録票の配布

当初は１００件程度の名簿でしたが、数回の訪問活動を重ねて、名簿も新しくし現在は６００件弱ほどの訪問件数となりました。あわせて健康づくりや居場所づくり、孤立しないための交流事業にも励み、また老人会の活動の支援や民生委員・児童委員と連携をはかり、地域全体で見守る環境づくりを進めています。



府営団地分会の登録票の様式

○具体的な活動

年３回の各棟自治会福祉部役員による訪問活動

役員研修

・吹田市…佐竹台地区のサロン活動（平成２１年）

・京都市…伏見区醍醐南団地のサロン活動についての研修会（平成２２年）

交流事業

・娯楽会事業…おたっしゃ応援事業

・誕生日会活動…月１回老人会が主催

・大鍋大会…防災や炊き出し訓練を兼ねての実施

醍醐南団地宮田会長を招いての研修会

大鍋大会

友愛訪問活動

○活動の成果

自治会として各棟（一部を除く）の高齢者の世帯が把握でき、不測の事態等への備えができた。

予想以上にこうした活動を希望する高齢者が多く、近隣住民の支援や関係を必要とする人が多いことを改めて感じた。

年３回の訪問活動を契機に、普段からあいさつを交わしたり、顔なじみとなり住民同士のつながりが深まりつつあり、気にかけるようになってきている。

ひとり暮らしや日常、地域生活で不便さを感じる高齢者の情報が自治会等に寄せられるようになる等、住民の意識や関心が高まっています。

○課題とこれからの目標

すべての棟において名簿づくりが進んだわけではありません。各棟で選任される福祉部の役員は１年交代で、ところによっては半数以上が高齢者の世帯を占める棟もあり、担当役員自身が要配慮者という棟もあり、すべてを網羅するのは困難でした。担当役員の生活スタイルや、個々の訪問、住所・氏名等の情報を共有する等こうした活動に否定的な思いがある方もおり、難しいところもあります。しかしながら、多くの人は同調的でした。活動を継続的に積み重ねていくことで、多くの人が意識し、日常的な見守りが多方面から展開できるようになるのではないかと期待しています。

重点事業　男性のボランティアの育成と確保について

〔目的〕

日本国民の平均寿命が延びているなか、余生をいかに充実して元気に過ごせるかが、高齢者福祉のテーマ、課題となっています。ボランティア活動をはじめる人の多くが、女性では子育てが落ち着いた５０代、６０代なのに対し、男性では定年前後に始める人が多くを占めています。しかしながら、近年では定年を延長し仕事を続ける人が増え、ボランティア活動者の担い手の確保が重要なテーマとなっています。現在活動するボランティアやグループの関係者からは男性の加入を求める声も聞かれ、そうしたニーズをしっかりと踏まえながら、ボランティアの育成や活動へのきっかけづくり等を進めていきます。

〔この５年間の活動から…〕

≪ボランティアの育成と確保…ボランティア活動のきっかけづくり≫

・男性のためのボランティア講座

団塊の世代が定年を迎え、生活の基盤が会社から地域社会に移行していくなかで、シニア層の新たな出会いや体験のきっかけづくりとなる講座を企画・開催しました。

平成２２年度に実施した講座では、園芸福祉に関する内容の講義を行い、受講者はその後、洛和グループホーム京田辺において、隣地の園芸作業や施設利用者との交流など継続したボランティア活動につながっています。

いきいきシニアプログラム

～植物づくりから仲間づくりを始めよう～

［導入編］園芸と福祉

講義１：園芸作業を通しての高齢者との関わり方

講　師：溝川　長雄氏、嘉住　熊二氏

（ＮＰＯ法人「京の園芸福祉研究会」）

講義２：認知症についての正しい知識と適切な対応

講　師：京田辺市社会福祉協議会職員

［実践編］農作業と交流

農作業及び施設入所者との交流

説　明：洛和グループホーム京田辺職員

講　師：嘉住　熊二氏

毎週金曜日の園芸作業

施設行事にも一緒に参加

［ボランティアのコメント］

社協の園芸ボランティア養成講座の案内を見て自分にもできそうなことと、友人を増やしたいという思いで参加しました。多趣味な方や多芸な方々と楽しく話をしながら無農薬野菜を作り、グループホームの利用者の方々との交流を通して、たくさんの笑顔を見ることが楽しみに活動を行っています。

重点事業　学生や若い世代のボランティアの育成・確保について

〔目的〕

ボランティアグループによるワークショップなどの意見交換において、担い手不足や高齢化の解消が課題とされており、多様なニーズにも対応できる基盤が必要とされています。京田辺市内には、高校や大学などの学び舎があり、多数の学生が在学・在住しています。そういった教育機関や学生と連携し、ボランティア活動の企画やきっかけづくりを行うことで、若い力や行動力を活かした活動を進めていきます。

〔「ボランティアに関するアンケート調査」から…〕

今回の調査では、若い世代がボランティア及びボランティア活動に対してどのように考え、どのような関わりを持っているのかなどを把握することで、ボランティア活動を始めるきっかけとなるようなボランティアプログラムの構築、そして担い手の確保につなげるため、様々な関係者の協力により実施しました。

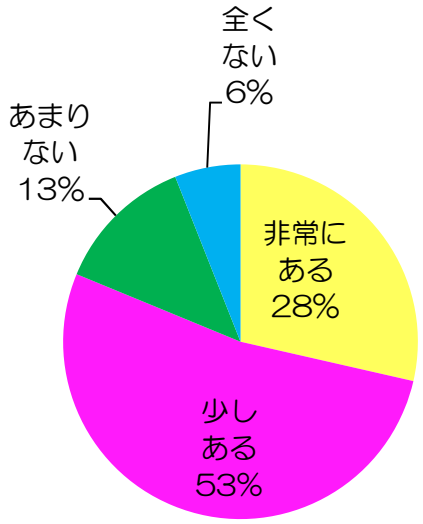
アンケート実施日	平成２２年１０月１８日（月）から約２ヵ月間
アンケート回答者数	２６６名　（男性　１１７名　女性　１４９名）

「ボランティア活動への参加に関心がありますか」との問いに対し、「非常にある」「少しある」と答えた人は、８割を超えました。（表１）その一方で、アンケート回答者のほとんどが学生ということもあり、その半数以上が何らかの部活・サークルに参加していたり、アルバイトを週に２～３回程度行っており、学業との両立もちろん時間的に余裕がないことが伺えました。

また、「現在参加している」と答えた人は３割に上り、「新たな発見や体験」ができることや「コミュニティ（仲間）づくり」につながることがボランティア活動を行っている目的とする人が上位という結果となり、自分自身の見識を深め、豊かな人間関係をつくるために、高い志を持って活動をされていることが分かります。（表２）

（表１）

ボランティア活動への関心は



現代の社会では、インターネット上だけのつながりしか求めない学生や無気力な学生が増加していることなどが問題視されていますが、そういった社会だからこそ、直接的な人と人とのつながりや関わりを求める学生も多く存在するのではないかと考えます。

ボランティア活動をするきっかけとして、「友人・知人」を通して情報を得る人が多く（表３）、情報量や情報提供の方法に問題がるのではないかといった意見があると共に、「ボランティア活動に参加していない理由」においても「きっかけがなかったから」と答えた人が多く、関心があってもなかなか見つからない要因に対し、啓発やＰＲの工夫が求められています。

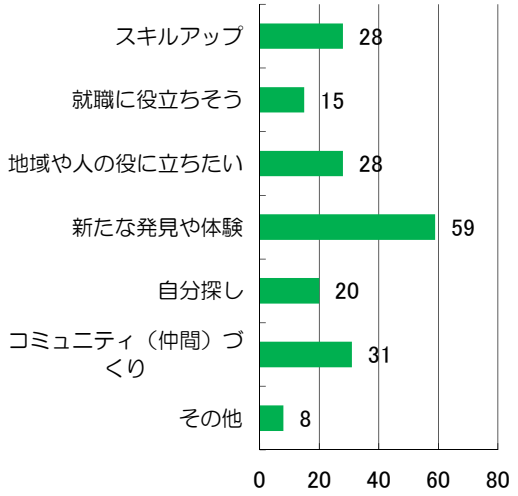
ボランティア活動に「過去に参加したことがある」と答えた人は４割を超え、大学入学までの教育過程やクラブ活動で、福祉教育やボランティア活動が取り入れられ、その意識や考えなどにも反映しています。

「あまり参加したことがない」と答えた人で、「今後ボランティア活動に参加したいですか」という問いに対しては、「参加したい」と答えた人が５割で、長期休暇を利用し、自宅や大学周辺で活動してみたいという回答が多くみられました。活動の分野では、「文化・芸術」「まちづくり」「児童福祉」に興味がある人が多く、そういった視点でのボランティアプログラムの構築が求められています。

これらのアンケート結果を基に、今後のきっかけづくりを進めていきます。

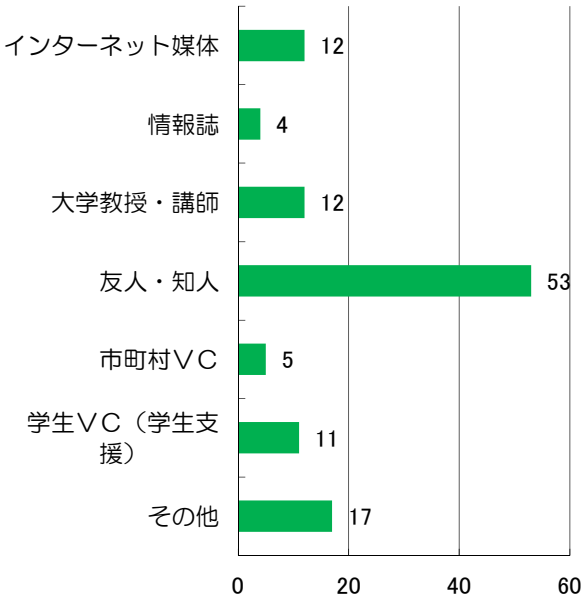
（表２）

ボランティア活動の目的は…



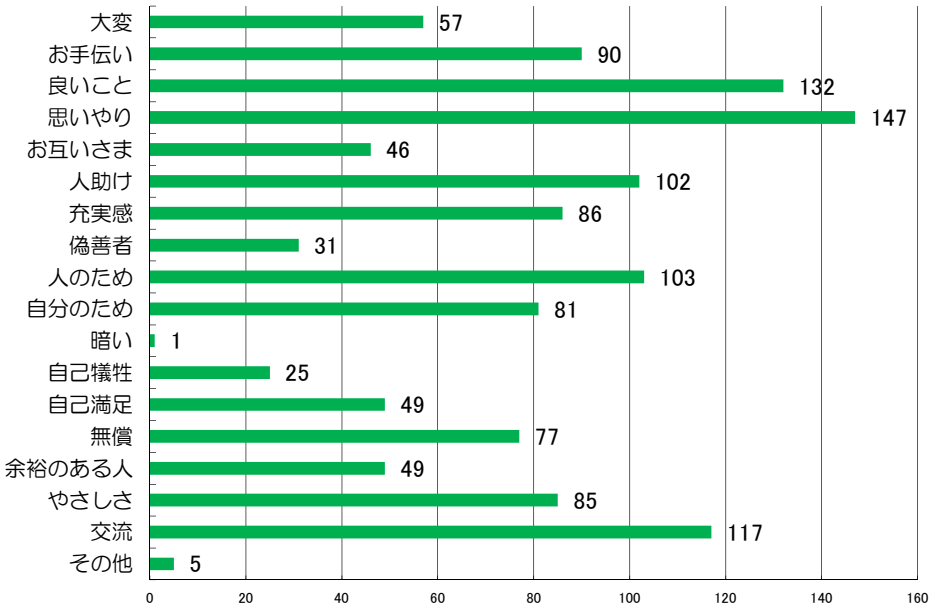
（表３）

情報収集の仕方について



（表４）

「ボランティア」と聞いてのイメージ



印象的だった意見など…

・ボランティア活動が人と人をつなぐ方法のひとつだと思うので、もっとボランティアのことを知っていきたいと感じた。

・情報が少ない。どのようにボランティアをしたらいいかわからない。きっかけがない。

・ボランティアを通して「人のため」が次第に責任感から負担になっていることが最近の悩みです。

・ボランティア活動を通じて、自分の身になることがしばしばあったので、他人や社会に貢献するという気持ちや自己犠牲の気持ちを持たずとも有意義な時間を過ごすためだけに参加するもの良いと思います。

・ボランティアをたくさんやっているのですが、ボランティアの意義をよく考えます。

・ボランティアを通して、ボランティアをしている人がスキルアップできるように考えてあるとモチベーションが上がりもっと多くの人がするようになるのではないかと思います。「手伝ってあげる」という意識を持ってボランティアを続けることはできないし、上からの目線なのであまり用意と歩もいません

・ボランティアするということは、自分の心の成長につながると思っています。

・興味があっても参加しづらい部分も多いと思う。気軽に入れるような空気が必要。